

10・21国際反戦デーへ!

2018年9月15日
No.524

Tel 03-3651-4861

mail_cn001@zengakuren.jp

http://www.zengakuren.jp/

全学連(高原恭平委員長) 書記局通信

9・9革共同集会での 全学連の決意表明

◆全学連新委員長・高原恭平

全学連の新しい委員長に就任した東京大学2年の高原恭平です。

全学連は、先日の全学連大会において執行部を刷新させました。新しい全学連の執行部は、何よりも「改憲阻止」と「新自由主義大学粉碎」を闘い抜く執行部です。



今、安倍—日本帝国主義の側は、帝国主義国・大国間争闘戦の激化の中で、まさに改憲=戦争国家化というところに唯一の活路を見出して、本気で改憲を実行しようとしてきています。その中で大学においても、やはり京都大学のように軍事研究だとか、オリンピックの強制ボランティアへの学徒動員、入学式などでの日の丸・君が代の強制、さらには学生自治会・寮自治会の解体…… そういうった形で、どんどん大学を戦争国家の中に組み込む攻撃、新自由主義大学化の攻撃が進んできています。



しかし、改憲=戦争国家化攻撃に対しては、革命的共産主義者同盟を先頭に絶対に阻止しなければいけないと考えています。そして「それは可能なのか?」と言え、それは「絶対に可能だ!」という風に断言します。現在、JRの職場においては、動労千葉—動労総連合が第三の分割・民営化や乗務員勤務制度解体と対決しています。自治体や教育現場では、職場の戦争協力を阻止する為に、本気で闘い抜いている労働者の方がいます。そして三里塚では「国策」

10・21国際反戦デー

10月21日(日) 12:30 日比谷公園中幸門 集合

13:00 デモ出発

14:00ころ 東京駅近辺で解散

<主催>全日本学生自治会総連合



「国益」などと称して行われる、資本主義の「命より金儲け」と非和解的に闘い抜いている三里塚闘争があります。そういった闘いがあるからこそ、やはり「革命は可能だ」と断言できるわけです。この間、大学においても京都大学を先頭に大きな闘いが爆発しています。そして詳しい事は発言できませんが、反革命カクマルや日共スターリン主義とも闘い抜きながら、東京大学を先頭に多くの大学で拠点校化が進んでします。今の全学連を見ればまさに50年前の日大・東大闘争のように、大学を革命の砦にする事は絶対に可能だと言えます。全学連としては、革共同の「党と労働組合の一体的建設」をわがものにしながら、改憲阻止・新自由主義大学粉碎の大衆運動を爆発させていくと共に、全学連の勢力を拡大し、更に学生運動—ゼネストの指導部となれるような全学連の執行部を作っていきたいと考えています。

本日ここに結集された皆さん！ 11月4日の全国労働者集会—改憲阻止の大デモを、一万人の規模で日帝に叩きつけようではありませんか。会場の日比谷野音に一万人を結集させる鍵はどこにあるのか。それは、職場やキャンパスで「どうやったら戦争を止められるのか」「どうやったら職場・キャンパスの現状を変えられるのか」と一人や少数で苦闘している仲間のところ、自分たちが革命的共産主義者として断固として登場していく、機関紙を持ち込み、どんなに厳しくても討論していく——そういう中にこそあります。そういう闘いを実践すれば、11・4労働者集会への1万人大結集というのは実現できるという風に考えています。ですから、自らの闘いと革共同50年以上の闘いに、誇りと絶対の確信を持ち、そして労働者階級・学生に無限の信頼をおいて、職場やキャンパスでどんどん仲間をオルグしていきましょう。そうすれば、改憲阻止—日本プロレタリア革命は絶対に実現できます！

さて、世界はいま戦争情勢にあります。新聞報道によれば、トランプ政権は中国からの輸入に対して、第4弾の報復関税を適用すると、そうすると中国がアメリカへ輸出する全額に高額関税がかかるという事になるそうです。まさに第2次世界大戦直前のブロック化というものが進行しているという風に思います。しかし、世界は戦争情勢であると同時に革命情勢でもあります。アメリカではトランプ—アメリカ帝国主義と闘う労働者の決起が起き、社会主義を求める学生が一気に増えています。中国では中国スターリン主義と対決する労働者と学生が決起しています。ヨーロッパでもそうです。私たちも日本で、韓国民主労総のキャンドル革命に学び、そして更に沖縄に連帯して人生をかけて決起した全学連の大先輩である星野文昭さんの闘いに学んで、革命勝利—人間が人間らしく生きられる社会を作るた

めに、革命的共産主義者同盟—マルクス主義学生同盟—すべての闘う人民と連帯し闘いぬきます。

改憲阻止—日帝打倒—プロレタリア革命の完遂に向かって、皆さん人生と命をかけて共に闘い抜きましょう！

◆全学連新書記長・加藤一樹

今回新しく全学連の書記長に就任した京大法学部一回生の加藤一樹です。

僕が1回生でありながら全学連の書記長になったのは、改憲の波が大学にも押し寄せているからです。それは例えば、オリンピックボランティアの学徒動員で



あるとか、京大で言えば立て看板規制や自治寮潰しです。そして、これらは間違いなく、学生の言論を封じ込めて、労働者階級の利益を圧殺し、改憲を推し進めようとする策動と一体です。こうした策動に対して、僕たち労働者・学生は、「こんな事を絶対に許さないんだ」「社会の主役は労働者だし、大学の主役は学生なんだ」という気概で頑張っていきたいと思います。

よく言われるのは「労働者は鉄鎖以外に失うものは何もない」（『共産党宣言』）だと思います。しかし、学生も学籍以外に失うものは何ともありません！絶対に大学でストライキを行って、軍事研究を許さないんだ、そういう声を上げていきたいと思います。

さて、こうした安倍の策動の中で、全学自治会同学会の選挙が、被処分者らへの「構内立入禁止」や学生への不当処分などの大弾圧の中で決行されました。そして、新自由主義大学爆砕を掲げる安田淳敏さんが、委員長として信任を勝ち取りました。

すべての軍事研究や似非科学は、今の新自由主義大学から始まっています。資本家は「原発は安全だ」などと言います。しかし、原発というのは給水ポンプが停止したら、22時間でメルトダウンを起こす——これは学生なら皆知っている訳です。そして、ほとんどすべての原発の地下には断層があって、全然安全じゃないんだというのも、学生は皆知っている訳です。そういった事を研究成果として、どんどん発表し、社会に広めていかないといけません。そういうことを安倍政権は圧殺しようとしているのです。労働者と学生は一体となって、連帯して、こうした策動を粉砕していかないといけないと考えています。

皆さん、一緒に頑張りましょう！